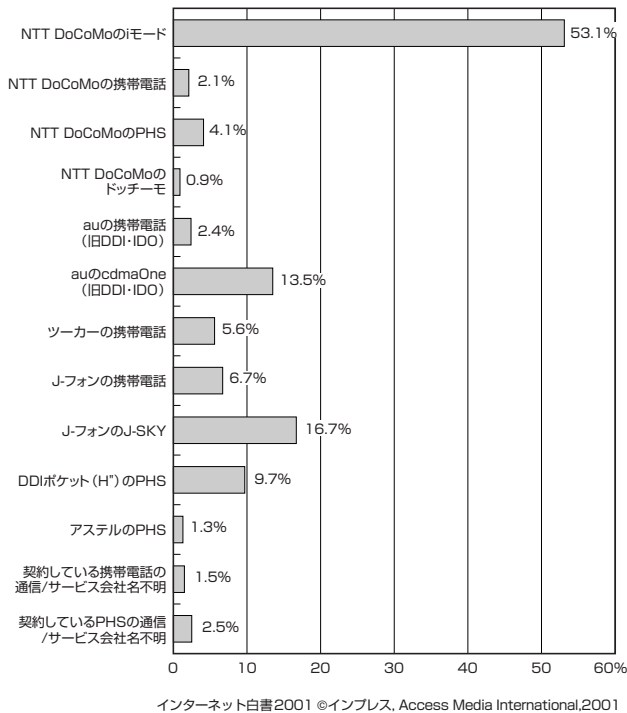
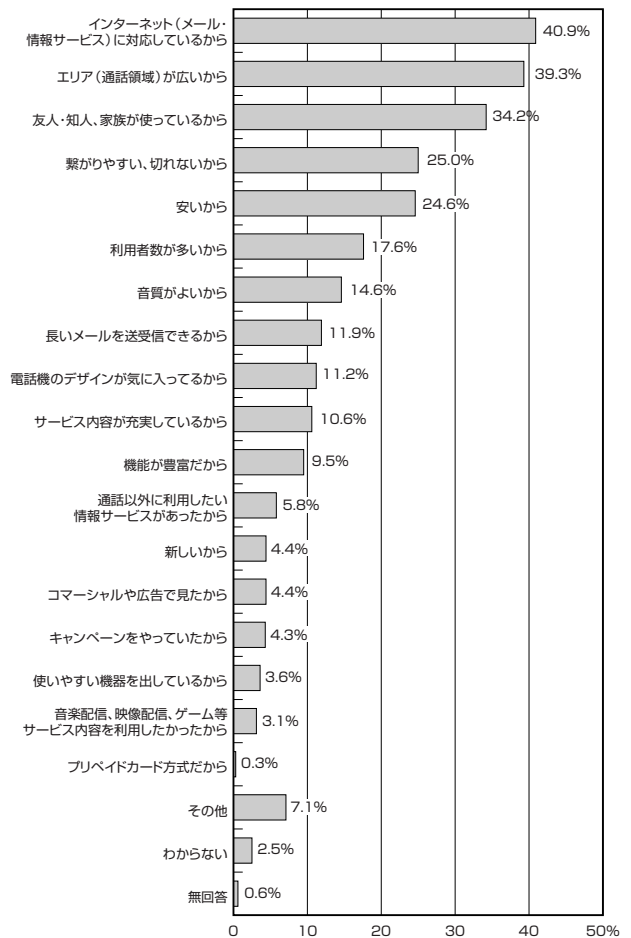


資料 1-2-29 契約している通信サービス会社 N=1,100



資料 1-2-30 契約している通信サービス会社の選択理由 N=1,100



解説

■ 契約通信サービス会社

普及状況でもみたように、携帯電話とPHSでは現在、圧倒的に携帯電話が多く利用されている。1台で携帯電話とPHS双方のサービスを利用することができる「NTT DoCoMoドッチーモ」を双方に加算すると「その他」を除く台数ベースでは携帯電話は84.6%、PHSは15.4%のシェアとなっている。昨年はそれぞれ71.5%、30.1%であったことを考えると、携帯電話のシェアがかなり増えたことがわかる。

回答者の契約先は「NTT DoCoMoのiモード」が群を抜いて高く、53.1%で

ある。次いで、「J-フォンのJ-SKY」(16.7%)、「auのcdmaOne」(13.5%)と続いている。また1人当たりの複数契約率は台数同様1.20である。契約通信会社の選択理由としては、「インターネット (メール・情報サービス) に対応しているから」(40.9%) が最も多く、次いで「エリア (通話領域) が広いから」(39.3%) 「友人・知人、家族が使っているから」(34.2%) が3大理由となっている。昨年6位だった「インターネット (メール・情報サービス) に対応しているから」がトップに躍り出たのはiモードの契約数が急

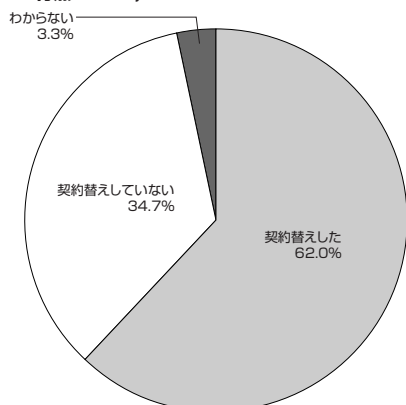
増したことと関係している。上位の理由を性別で見ると、女性では「インターネット (メール・情報サービス) に対応しているから」「友人・知人、家族が使っているから」が高く、男性では「エリア (通話領域) が広いから」が高い。年代別では10代で「インターネット (メール・情報サービス) に対応しているから」「友人・知人、家族が使っているから」が高く、40代、50代は「エリア (通話領域) が広いから」にこだわっている。

(矢野さよみ アクセスメディアインターナショナル株式会社)

## 第2章 携帯電話/PHS利用者

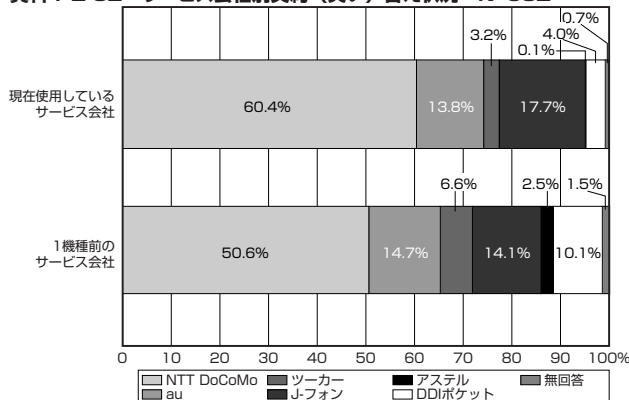
## 契約通信サービス会社

## 契約替えの経験は6割以上

資料1-2-31 携帯電話/PHSの主な1台についての契約(買い)替え経験  
有無 N=1,100

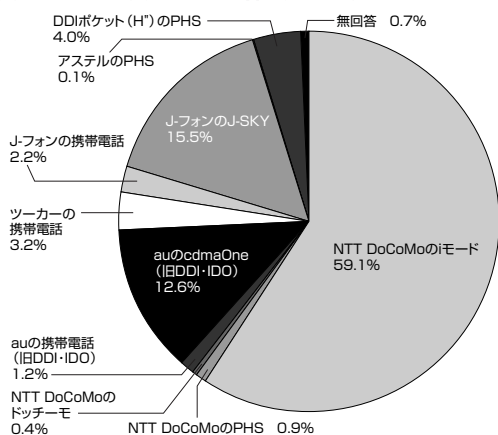
インターネット白書2001 ©インプレス, Access Media International,2001

資料1-2-32 サービス会社別契約(買い)替え状況 N=682



インターネット白書2001 ©インプレス, Access Media International,2001

資料1-2-33 契約替え経験者の現在の使用機種 N=682



インターネット白書2001 ©インプレス, Access Media International,2001

## 解説

携帯電話/PHSの爆発的な普及に伴い、今年是利用している携帯電話/PHSの主な1台についての契約替え(買い替え)の状況を詳しく聞いている。

主な1台については契約替え経験のある回答者が62.0%と6割以上を占める。性別年代別でみると、性別では差異はないものの年代では特に20代で71.7%と高くなっている。

さらに、現有機とその1機種前のサービス会社の比較により、携帯電話/PHSの契約替え状況をサービス会社別でグラフ化したのが資料1-2-32である。

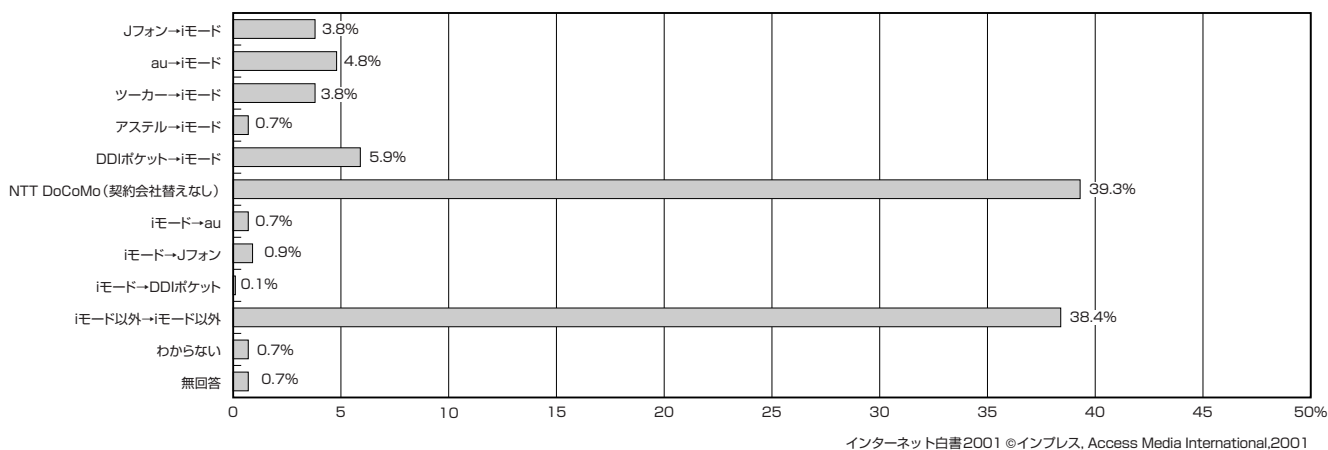
契約替えによって伸びているのは資料1-2-29の契約会社でも1位と2位だった「NTT DoCoMo」と「J-フォン」である。明らかに減少しているサービス会社は「DDIポケット」「アステル」「ツーカー」であり、「au」も若干だが減少している。

契約替え経験者における現在の使用機種は「NTT DoCoMoのiモード」が過半数の59.1%を占めている。先にみたように、「NTT DoCoMoのiモード」は契約先のトップであったが、複数回答でも53.1%であったことを考えると、契約替え経験者における「NTT DoCoMoのiモード」は

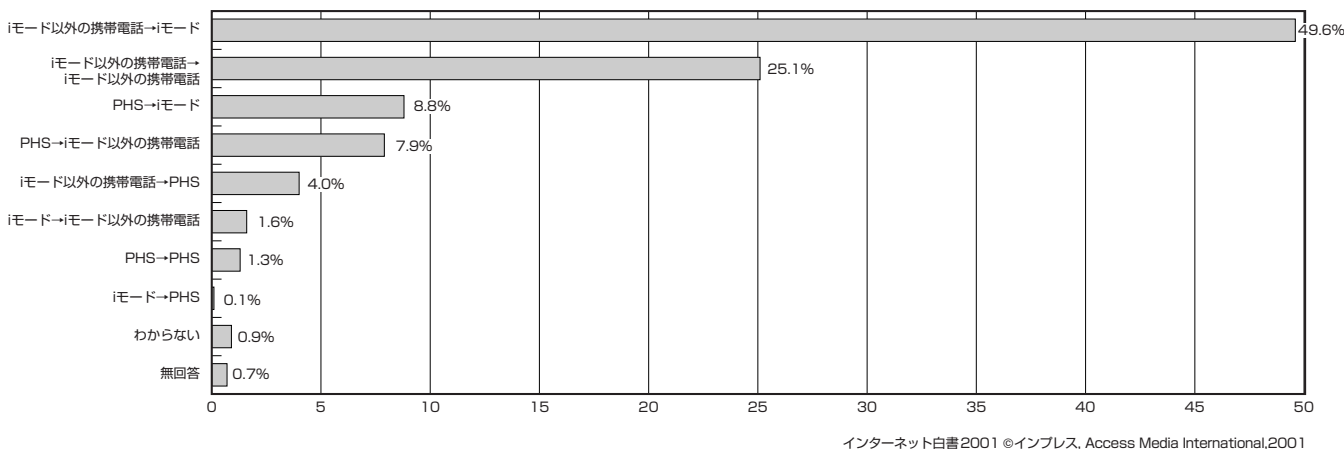
それを上回っており、言い換えれば契約替えするならiモードにするという最近の状況がうかがえる結果となった。

性別年代別では、「iモード」は男性、50代で比較的高く、J-フォンの「J-SKY」、auの「cdmaOne」や「PHS」は女性、10代で高い傾向がみられる。「ツーカーの携帯電話」は50代、60代以上で相対的に高い。

資料1-2-34 iモードへのブランドスイッチ状況(サービス会社別) N=682



資料1-2-35 iモードへのブランドスイッチ状況(携帯電話/PHS別) N=682



解説

なんといっても今年の調査結果ではNTT DoCoMoのiモードが主役とってよいだろう。そこで、iモードへのブランドスイッチ状況を詳しく調べるために、今回はどのようなパターンの契約替えが多いのかをiモードを中心にみてみた。資料1-2-34はサービス会社別、資料1-2-35は携帯電話/PHS別にみたものである。

サービス会社別にみると、最も多いのは前ページでもみたようにNTT DoCoMo内の契約替えである(39.3%)。資料1-2-35の携帯電話/PHS別でみる「iモード以外の携帯電話からiモード」への契約替え

が多いことと合わせて考えると、最も多いパターンはNTT DoCoMoの携帯電話からiモード対応機種への移行であることがわかる。また、iモードだけでなく、iモード以外の携帯電話/PHS同士の契約替えも38.4%あることがわかる。

サービス会社間の契約替えで最も多いのは「DDIポケット」からの移行で、昨年来PHSが減少し携帯電話が増えていることを裏付けるデータともいえよう。これは資料1-2-35の「PHS→iモード」への契約替えが8.8%となっていることからよくわかる。資料1-2-34では「iモード以

外の携帯電話→iモード以外の携帯電話」も多くなっており、資料1-2-35と呼応する。

また、サービス会社の異なる「J-フォン」「au」「ツーカー」からiモードへの契約替えはそれぞれ4~5%程度に留まっており、サービス会社を替わるケースが意外に少ないことがわかった。

(矢野さよみ アクセスメディアインターナショナル株式会社)



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)